

水防災情報の発信強化

建設局

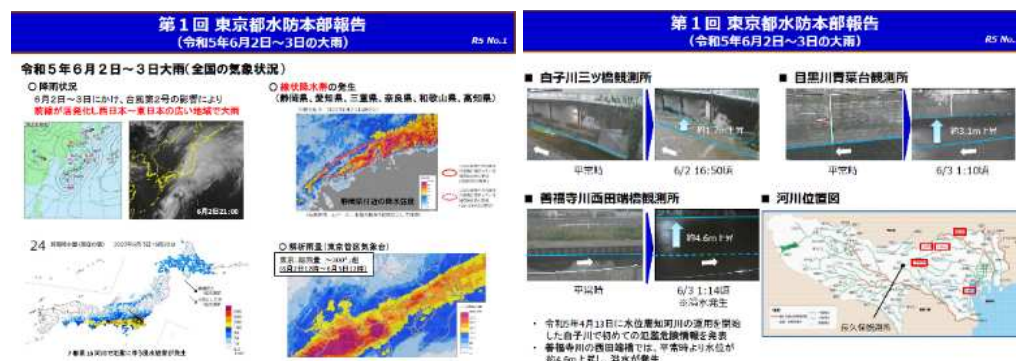
河川監視カメラの映像公開

- 令和元年東日本台風を契機に河川の状況を分かり易くリアルタイムに伝えるため、**河川監視カメラ等観測機器の設置拡大**を推進
- 令和5年度末時点で、**149箇所**の映像を公開
※東京都水防災総合情報システム
東京都水防チャンネル (YouTube) で公開中



調節池の貯留実績等の公表

- 水防本部を設置した際には、発表した河川情報や調節池の貯留実績などを取りまとめた「東京都水防本部報告」としてHPで公表



調節池貯留実績 (令和5年9月7日～9日)

河川名	調節池名	貯留量 (m3)	貯留率 (注1) (%)	流入		施設形式
				開始時間	終了時間	
古川	古川地下調節池	135,000	0	0	0	地下トンネル式
	船入堀調節池	55,000	0	0	0	地下箱式
目黒川	住原調節池	200,000	0	0	0	地下箱式
	神田川・横須賀線地下調節池	540,000	0	0	0	地下トンネル式
神田川	北江古井調節池	17,000	0	0	0	箱式
	砂正寺川第一調節池	30,000	0	0	0	箱式
砂正寺川	砂正寺川第二調節池	100,000	0	0	0	地下箱式
	上高田調節池	160,000	0	0	0	地下箱式
荒川	落合調節池	50,000	0	0	0	地下箱式
	荒川調節池	35,000	0	0	0	箱式
荒川	和泉公園調節池	17,500	0	0	0	箱式
	和泉第六調節池	48,000	0	0	0	地下箱式
荒川	善福寺川調節池	35,000	0	0	0	地下箱式
	比呂尾橋上流調節池	34,400	0	0	0	箱式
荒川	比呂尾橋下流調節池	212,000	0	0	0	地下箱式
	白子川地下調節池	212,000	42,000	9:23	10:13	地下トンネル式
荒川	霞川調節池	88,000	0	0	0	地下箱式
	芝久保調節池	11,000	0	0	0	箱式
荒川	向台調節池	81,000	0	0	0	箱式
	富野調節池	12,000	0	0	0	箱式
荒川	富士見調節池	33,800	2,500	9:22	9:51	箱式
	野川第一調節池	21,000	0	0	0	箱式
荒川	野川第二調節池	28,000	0	0	0	箱式
	野川大沢調節池	158,000	200	9:16	9:41	箱式
荒川	黒目川調節池	221,000	5,600	9:33	10:30	地下箱式
	柳瀬川	46,000	0	0	0	箱式
荒川	残堀川調節池	60,000	0	0	0	箱式
	計 (箱式・地下式)	2,640,700	50,300	2%		
稼働箇所数 (計: 箱式・地下式)		4				
荒川	上砂神明調節池	19,800	0	0	0	河内内 (注2)
	武蔵村山調節池	13,800	0	0	0	河内内 (注2)
計 (河内内)		33,600	0	0%		
稼働箇所数 (計: 河内内)		0				

※調節池の収容能力は、HPCに概算しています。
(注1) 貯留率実績は、水防本部が公表している実績に基づいて算出しています。
(注2) 稼働した河内内施設は、調節池として活用しています。

高潮浸水想定区域図の改定・高潮特別警戒水位の再設定

港湾局・建設局

■ 高潮浸水想定区域図改定・高潮特別警戒水位再設定の概要

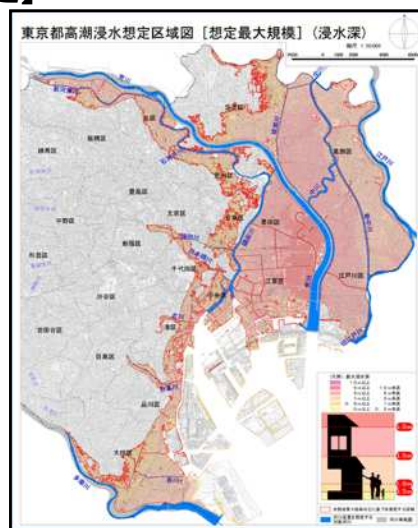
【これまでの経緯】

- 平成27年5月の水防法の一部改正に基づき、平成30年3月に高潮浸水想定区域図を作成
- 令和2年7月に高潮浸水想定区域を指定し、高潮特別警戒水位の運用を開始
- 令和3年7月の「高潮浸水想定区域図作成の手引き」改定に伴い、高潮浸水想定区域図の改定に向けた検討を開始
- 令和4年5月の「高潮特別警戒水位の設定の手引き」改定※に伴い、高潮特別警戒水位の再設定に向けた検討を開始

※災害対策基本法改正（令和3年5月）に基づき、避難指示（警戒レベル4相当）から緊急安全確保（警戒レベル5相当）に変更

【高潮浸水想定区域図の改定】

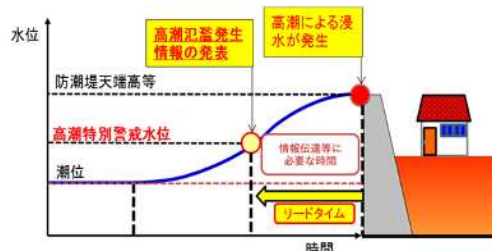
- 現在の浸水想定区域図と同様に中心気圧910hPaの台風（室戸台風級）を想定
- 新たに手引きに加えられた「半径の小さい台風」や「移動速度の小さな台風」についても検討
- 高潮により家屋が倒壊するおそれのある区域の検討
（家屋倒壊等氾濫想定区域図の作成）



現在の高潮浸水想定区域図

【高潮特別警戒水位の再設定】

- 新たな浸水想定区域を踏まえ、警戒水位を再設定
- 「緊急安全確保」の判断材料に資する、「情報伝達等に要する時間（リードタイム）」を検討



高潮特別警戒水位イメージ



現在の高潮特別警戒水位

■ スケジュール（予定）

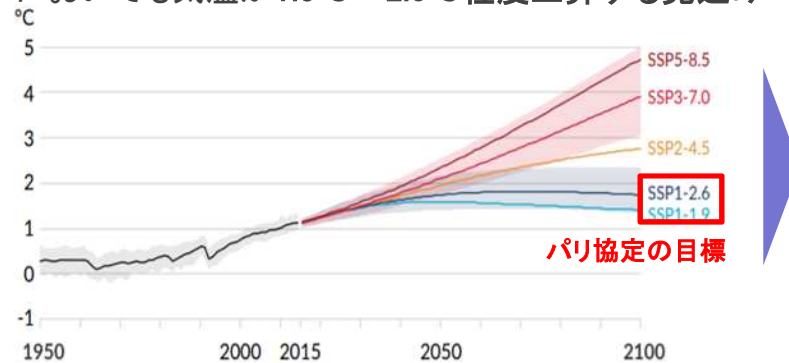
検討項目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高潮浸水想定区域図				★ 公表（予定）	
高潮特別警戒水位					★ 運用開始（予定）

気候変動対策

建設局

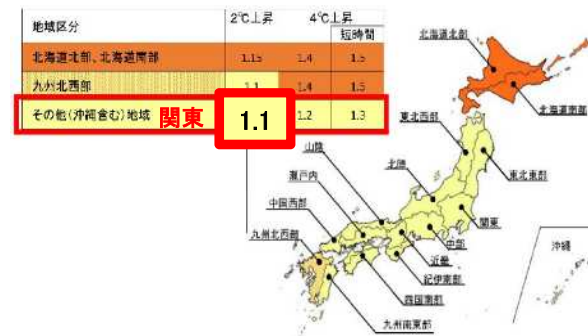
- ◆ IPCC(国連気候変動に関する政府間パネル 6次)において、温暖化のシナリオを具体的に提示
- ◆ 国は河川、海岸など事業別に委員会を開催し、気候変動を踏まえたあり方等、提言をとりまとめ

IPCCによると、パリ協定の目標を踏まえたシナリオにおいても気温が1.5℃～2.0℃程度上昇する見込み



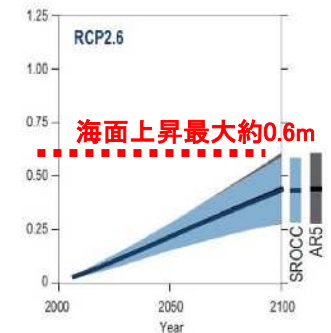
1850～1900 年を基準とした世界平均気温の変化(IPCC第6次報告書)

<降雨量変化倍率>



気候変動を踏まえた治水計画のあり方提言 改訂版(令和3年4月:国土交通省)

<2100年時点の
世界の平均海面上昇量>



IPCC「海洋・雪氷圏特別報告書」

「気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会」

→有識者等を交えた検討 (R4.6～R5.11)

「気候変動を踏まえた河川施設のあり方」(令和5年12月18日公表)

気候変動に伴う風水害リスクの増大に対して将来に向けた安全・安心を確保していくため、都の河川施設整備の方針として、今後目指すべき整備目標や整備手法などをとりまとめ



気候変動対策（気候変動を踏まえた河川施設のあり方）

建設局

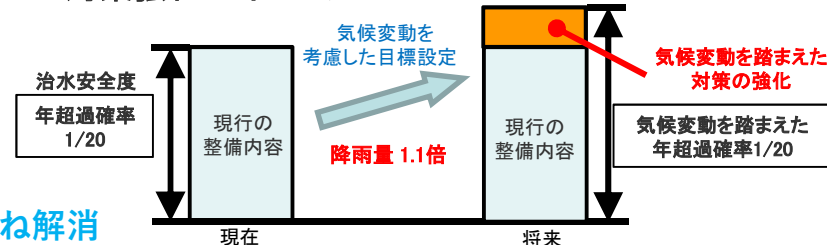
中小河川の洪水対策

整備目標

将来の気候変動により増加する降雨に対しても河川からの溢水を防止

- ◆気候変動を踏まえた年超過確率1/20の規模の降雨に対応した河川施設の整備を推進
- 過去に浸水被害をもたらした降雨でも河川からの溢水が概ね解消

■対策強化のイメージ

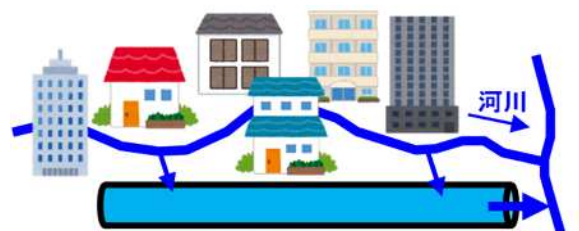


整備の考え方

調節池等を活用した効率的・効果的な対策の推進

- ◆気候変動により増加する降雨に対し、調節池等による対応を基本
- ◆既存の調節池の改造などの既存ストックを最大限有効活用

<新たな整備手法>



洪水を取り出し続けることが可能な地下河川などの流下施設の整備

→線状降水帯などによる長時間豪雨に効果を発揮

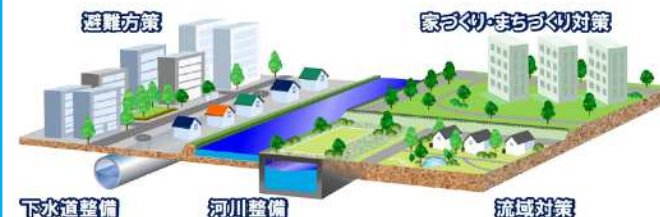


調節池容量を相互融通できる調節池のネットワーク化

→局地的な時間100mmを超える大雨に効果を発揮

今後の進め方

- ◆10流域（神田川、石神井川、白子川、野川、境川等）において優先的に対策を実施
- ◆河川、下水道、流域対策等を組み合わせて、気候変動に対応



豪雨対策の基本的な施策
東京都豪雨対策基本方針(改定)(令和5(2023)年12月)

気候変動対策（気候変動を踏まえた河川施設のあり方）

建設局

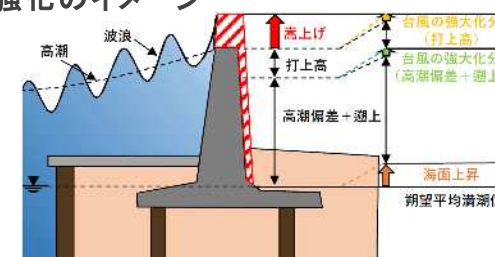
低地河川の高潮対策

整備目標

将来の気候変動に伴う海面上昇や台風の強大化による高潮
に対しても河川からの溢水を防止

- ◆ 気候変動（2℃上昇）を考慮した伊勢湾台風級（930hPa）の高潮と海面水位の上昇量0.6mに対応した河川施設の整備を推進
- ➡ 過去に東部低地帯に浸水被害をもたらした高潮でも河川からの溢水を防止

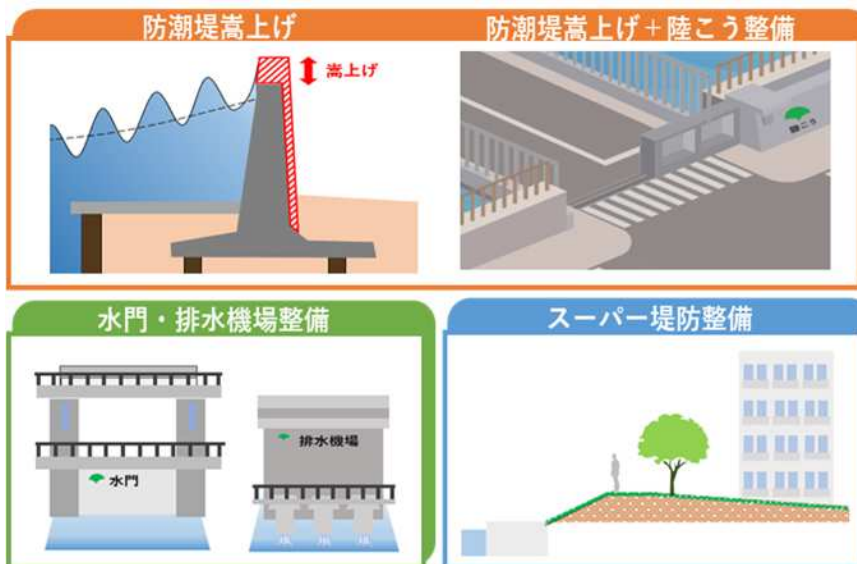
対策強化のイメージ



整備の考え方

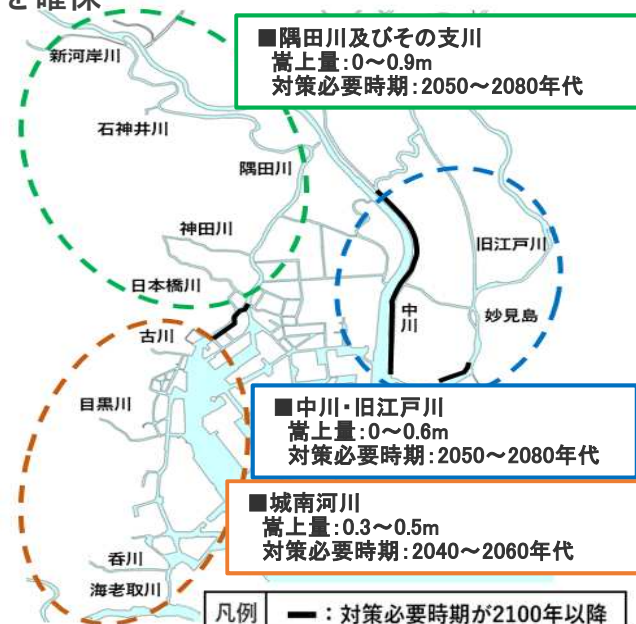
河川の特性を踏まえた整備の実施

- ◆ 将来の高潮に対しては高さの確保が基本
- ◆ 各河川の景観や背後地との連続性等にも配慮



今後の進め方

- ◆ 海面上昇や台風の強大化の影響により高潮防潮堤の高さが将来不足する河川から早期に安全性を確保



地下河川の事業化に向けた取組

建設局

環七地下広域調節池等を連結し、海までつなぐ地下河川の事業化に向けた取組に着手

地下河川の検討イメージ



地下河川の効果イメージ

